



みどりの風

令和元年3月2日発行
校報 第572号
〔みどりの風 第115号〕
練馬区立関町北小学校

小さな親切が教えてくれるもの

— 地域からの一本の電話より —

校長 大野 泰弘

2月中旬のある日、学校に一本の電話がかかってきました。

「関北小の5年生のお子さんが、道路に倒れている高齢者の方を助けていて、とても感心しました。」

電話を受けた教員が、5年生の学年の教員に伝え、親切な行いをした二人の女子児童が分かりました。

二人の話によると、新青梅街道沿いにある自動車用品販売店前で、ビル風のような強風が突然吹いてきて、近くを自転車に乗って走行していた高齢者の男女が、道路沿いに自転車ごと倒れてしまったとのこと。ちょうど、横断歩道で信号が変わるのを待っていた二人は、その様子に気づき、車道寄りに倒れていたおばあさんを助け起こそうと、その場に走って行ったというものです。

その二人に、そのときの思いや状況を尋ねてみました。

<S. Oさんの話>

○私は倒れてしまったおじいさんとおばあさんを見て、まず最初に、けがのことを心配しました。自転車が倒れていて、大変そうだったので、助けることにしました。周りに大人はいたのですが、ただこちらを見ているだけでした。助けた後におばあさんたちが「ありがとう」と言ってくださり、やりがいを感じました。このように、自転車と一緒に倒れてしまうのはあってはならないことだけれど、もしもこういうことが起きてしまったら、助けてあげることのできる大人になりたいです。

<A. Fさんの話>

○私は倒れている人の周りには大人の人は見ているだけで、助けようとはしていませんでした。でも、私は倒れてしまった人がおじいさんとおばあさんだったので、とても心配でした。そこで、自転車を起こすのを手伝いました。最後に、二人から「ありがとうございました」と言われて、無事だったのもよかったです。そう言われてうれしかったので、やってよかったなと思いました。

状況によっては、大きな事故にもつながりかねなかった高齢者の方の危機を救った、二人の勇気ある5年生の行動はとてすばらしく、助けられた高齢者の方の感謝の気持ちは二人の心にしっかり届いたことでしょう。将来にわたって、二人の心に根付いたであろう、「人の役に立つ」喜びが、今後の成長の原動力になってくれることを願います。

今回の二人の5年生の行動に対して、多くの子どもたちが共感し、自分にできることがあれば実行に移していきたい、そう思ってくれたに違いありません。そのためには、私たち大人が範を示し、子どもたちのよきモデルになっていきたいものです。

学校では、道徳教育を要とし、子どもたちに「人としてどのように生きるべきか」を学んでもらっていますが、このような道徳的な実践力は、道徳の時間だけで身に付くものではありません。子どもたちが日々の実生活の中で、自ら考え、判断し、行動できるようになってこそ、道徳教育が実のあるものとなるのだらうと思います。

そして、その前提となるのは、家庭の教育力であるとも言えます。これからの学校教育は学校内に留まるのではなく、広く家庭や地域社会との連携をより深めながら、社会に開かれた形で進められなくてはなりません。

来年度から、教育内容や教育方法が変わっていきますが、教育の原点は、上記の5年生のように、「人のためになる」、「人の役に立つ」そんな思いをもって生活すると共に、その思いを行動に移せる果敢な勇気と正義感、人への愛情をもった心を育てることにあります。

今年度は、校舎等全面改築工事に伴う仮設校舎への移転、台風による運動会の中止、開校60周年記念行事、そして、年度末には新型コロナウイルス対応のための臨時休校など大きな出来事がありましたが、来年度からも皆様のお力をお借りしながら、よりよい教育活動を進めてまいりたいと考えております。

一年間、たいへんお世話になり、ありがとうございました。